

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成27年7月9日(2015.7.9)

【公表番号】特表2013-513606(P2013-513606A)

【公表日】平成25年4月22日(2013.4.22)

【年通号数】公開・登録公報2013-019

【出願番号】特願2012-543111(P2012-543111)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/4025 (2006.01)

A 6 1 K 31/4436 (2006.01)

A 6 1 K 47/12 (2006.01)

A 6 1 K 47/04 (2006.01)

A 6 1 K 47/34 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/4025

A 6 1 K 31/4436

A 6 1 K 47/12

A 6 1 K 47/04

A 6 1 K 47/34

【誤訳訂正書】

【提出日】平成27年5月11日(2015.5.11)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 4 5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 4 5】

本発明の方法を用いて治療することのできる疾患としては、緑内障、眼内圧上昇、視神経症、角膜痛、糖尿病性網膜症、網膜ジストロフィ、黄斑変性症、非滲出性老人性黄斑変性症(ARMD)、浸出性老人性黄斑変性症(ARMD)、レーバー遺伝性視神経症、多発性硬化症に伴うことの多い視神経炎、網膜静脈閉塞症、虚血性神経症および他の神経変性疾患、脈絡膜血管新生、中心性漿液性網脈絡膜症、囊胞様黄斑浮腫、糖尿病性黄斑浮腫、近視性網膜変性症、急性多発性小板状色素上皮症、ベーチェット病、散弾脈絡網膜炎、中間部ブドウ膜炎(周辺部)、多病巣性脈絡膜炎、多発消失性白点症候群(MEDS)、眼サルコイドーシス、後部強膜炎、地図状脈絡膜炎、網膜下線維症およびブドウ膜炎症候群、フォークト小柳原田症候群、点状脈絡膜内層症、急性後極部多発性小板状網膜色素上皮症、急性黄斑部視神経網膜症、ならびに光線力学療法およびレーザー角膜切削形成術(LASIK)などの治療・手術が挙げられるが、これらに限定されない。